

活路を求めて

四国の輸出・進出戦略

-25-

■ 裁断機

トーカー (東かがわ市)

薄型テレビやスマートフォンに欠かせない高機能フィルム。ディスプレイの薄型化を支えるこの素材は、機能が高いほど加工が難しくとされる。裁断機メーカーのトーカー(東かがわ市)は、そんな高機能フィルムを高精度で切り抜く機器を国内だけでなく、海外に供給している。

あらゆる製造現場で必要のため、景気に左右されにくいといわれる裁断機。だが、ニッチ(すき間)な分野で、後発メーカーはシェア拡大が難しい。同社の東和男会長は「成長のため、先行メーカーの苦手分野を研究し続けた」と振り返る。

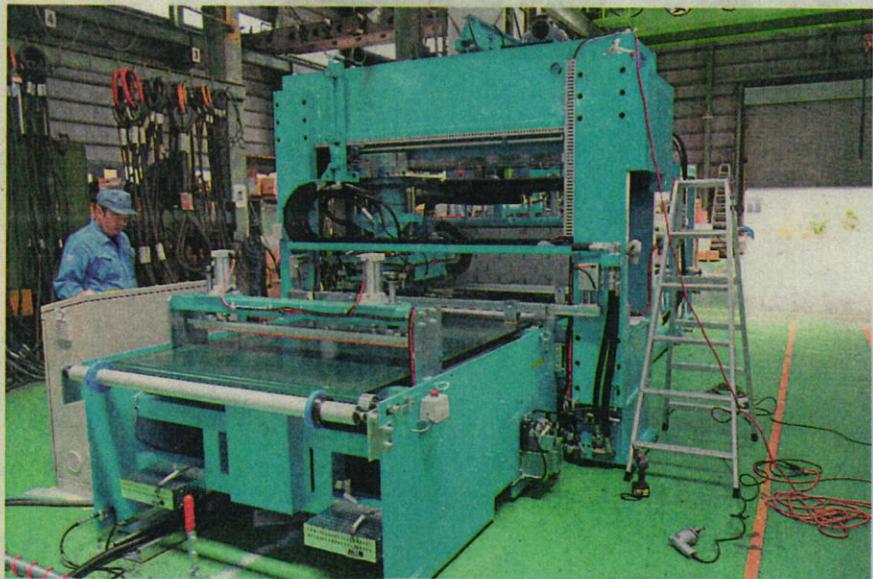
内メーカーだけでなく、ア

そして見つけ出したのが、高機能フィルム。0.05〜1ミリの厚さに強度や柔軟性の異なるフィルムが何層にも重なっており、単一素材とは、難易度が別次元(東会長)。1枚ずつ切り抜いても、切断面に「バリ」と呼ばれる不要な突起が発生しやすいという。

同社は、抜き型の切れ味を高めるため、裁断機に内蔵したモーターの振動を低減。切り抜く速度も速すぎると精度が落ち、遅ければ切れ味が鈍るため、素材に応じた最適の速度を設定するノウハウを蓄積した。

こうした努力の結果、国内メーカーだけでなく、ア

新素材対応で世界へ



出荷に向けて調整を重ねる裁断機。国内外のさまざまなメーカーに供給している—東かがわ市横内

アジアや欧州などの家電メーカーからも注文が入るようになった。高機能フィルム用。

10年前までフィルム用裁断機の供給先は国内メーカーが中心だったが、現在はデジタル家電やスマホの勢力図の変化により海外メーカーへの供給が急伸。東会長は「海外需要は今後さらに伸びる」とみる。

裁断機の市場は大きくないものの、新素材が生まれるたびに、新たな試行錯誤が求められる分野といえる。「技術で勝負し、小粒でも存在感のある会社でありたい」。東会長は、日本の技術力を世界に示し続けたいと意気込んでいる。

四国4紙共同企画

自然エネ 20年まで
香川など36
大手ソフトバ
「自然エネル
は16日、佐賀
会を開き、総
る太陽光や風
然エネルギー
の約10%から
でに20%にす
度中に設定す
に求める提言
次世代エネ
される水素を
の技術開発を
に経済産業省
出す。

1950年設立。設計から納品まで手掛け、月間の出荷台数は国内外合わせて20〜30台。抜き型タイプのほか、コンピューター制御の刃で材料を切り抜くタイプなども扱う。従業員数は100人。2013年6月期の売上高は22億3千万円。

ガンリン19都府県170円超

12週連続上昇、香川168円台

経済産業省資源エネルギー庁が16日発表した14日時点のレギュラーガンリン1リットル当たりの全国平均小

推移



良いエンジンを積んだ新型車の導入を進めるが、燃料費の抑制効果に限界はある。運転手に無駄な燃料を使わない省エネ運転を徹底するなど、「細かいことを

経営努力で吸収する構え。現在は食品包装材料などへの転嫁は見送っているが、原油が一段と高騰すれば価格の見直しに踏み切る可能性もある。

スワニーが販売したコンパクトに折り畳める車いす

ね上げて収納でき、洗面台や台所などにより近づ

12%	3456	1620
10%	4860	3780
10%	4860	3240
5%	5400	2376
1箱	14040	3240
1箱	4320	972
2%	1944	840
2%	2466	1260